

情報解禁 2022年6月1日21時

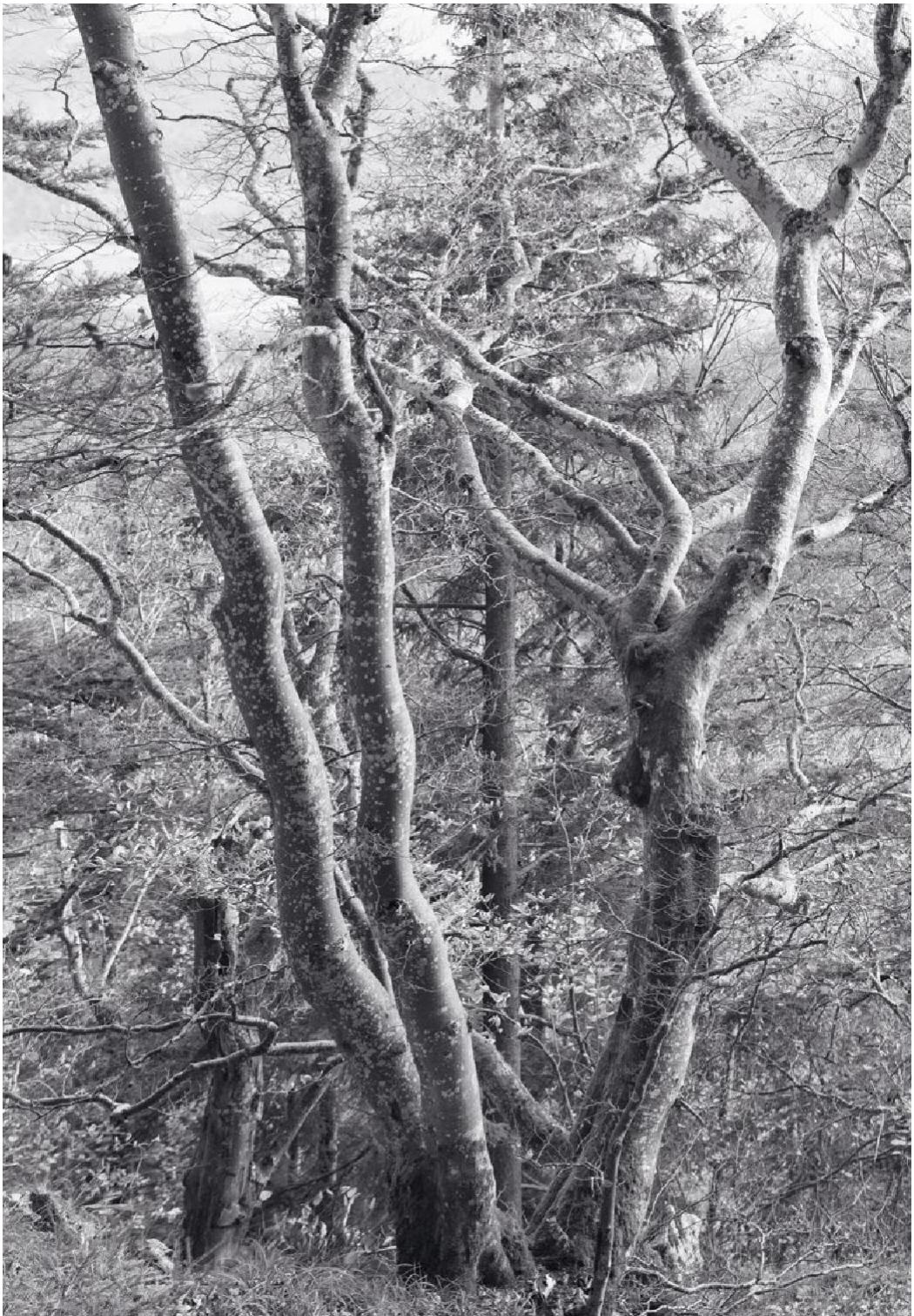


プレスリリース

# ヘルシュタイン エディション 2022

オリスの誕生日6月1日を記念して  
ヘルシュタインエディション2022を発表

**ORIS**  
HÖLSTEIN 1904



## ヘルシュタインへの道

オリスは1904年に、スイスのヘルシュタイン村で創業しました。バーゼルから近いのですが、伝統的なスイス時計の生産拠点からは遠い場所です。その土地が今でもオリスの特徴に影響を及ぼしています。

私たちの性質は少なからず出身地に影響を受けるものです。国や都市、街や村など、生まれた土地はその人の一部です。オリスはスイスの田舎、ヘルシュタイン村で1904年6月1日に産声を上げました。それから118年の間、この美しい村がオリスを作り、導いてきました。

オリスを創業したのは、スイスのフランス語圏で時計づくりの中心地ル・ロックルから来た、2人のパイオニア精神あふれる時計

師でした。スイスのドイツ語圏の都市バーゼルを発展させていた工業振興を時計づくりに採用する構想を持っていました。自分たちが培ってきた技術と、当時最新のテクノロジーを融合すれば、世界中の人々に高品質なスイス時計を届けることが出来ると信じていたのです。

それは当時としては、型破りなやり方でした。近くを流れる小川の名前をもらって名付けたオリスは、独自の道を歩みます。

それだけではありません。ウォルテンブルグ渓谷に囲まれた、大変美しい景観のヘルシュタインは、そこで働く人々を魅了し、インスピレーションを与えます。

---

「近くを流れる小川の名前をもらって名付けたオリスは、独自の道を歩みます。」

創業者のビジョンは118年が経ったいまでも生きています。私たちにインスピレーションを与え続け、サステナブルな戦略を喚起させる渓谷は、今でもオリスの拠点です。ヘルシュタインはオリスのホームランドです。それを記念する、ヘルシュタインエディションの第3弾目を発表します。

# 特別なモデル

ヘルシュタインエディション2022  
は、1990年代後半に発表された  
画期的な機械式時計の  
リバイバルです。

オリスの118回目の誕生日を記念するのは  
1998年に発表されたフルスチールの  
ワールドタイマーを踏襲し、  
オリスがその1年前に開発した画期的なムーブ  
メントを搭載したものです。

ワールドタイマーの名で知られる、オリスのキャ  
リバー690は、ケース脇のプラスとマイナスの  
ボタンを使って1時間単位で時間を調整できる、  
当時世界初のムーブメントでした。日付をまたい  
で時刻を変更すると、日付も連動して変わる画  
期的な仕組みです。3時位置にホームタイムを  
表示します。

1990年代後半はオリスにとって激動の時でした。  
1970年代から80年代にかけて数百ものス  
イス時計メーカーが廃業に追い込まれた、あのク  
オーツショックを乗り越えて、実用的な機能を次々  
に開発していたのです。フルスチールのワールド  
タイマーは、オリスだけでなく、スイス時計業界に  
とってのランドマークになりました。

オリスのアイコンを忠実に再現したヘルシュタイ  
ンエディション2022は、250本限定です。36.5mm  
のステンレススチールケースに、3連のステンレス  
スチールブレスレット、ブルーのダイアルに、赤い  
プラスとマイナスのシンボルを配しています。

ムーブメントはオリスのキャリバー690です。



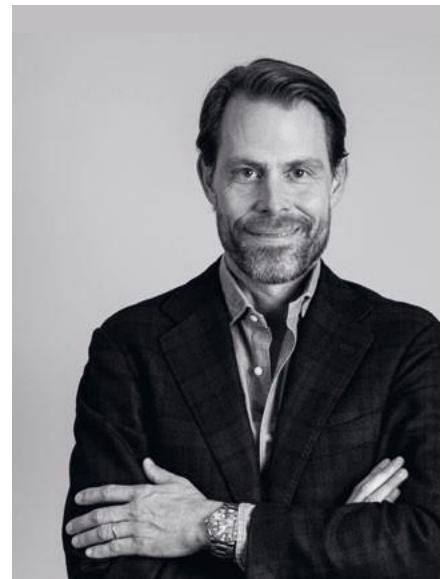


# 1990年代の スピリット

オリスの共同経営責任者ロルフ・スチューダーが、ヘルシュタインエディション2022と、それから得るインスピレーションについて語ります。

ロルフ、この2年間は時計業界にとって特別な期間でしたが、オリスはいかがでしたか？  
昨年はオリスにとって良い年でした。キャリバー400シリーズをいくつか発表できました。  
キャリバー400は現代社会に生きる人々のために開発したものです。当社は気候中立の認定を受け、最初のサステナビリティレポートを発行することができました。ずっと続いているチェンジ・フォー・ザ・ベター活動の一環もあります。そして、昨年ジュネーヴのウォッч&ワンダーに初出展しました。オリスの、オープンで飾り気のない、イタリアの広場のようなピアツツァ・コンセプトは大成功でした。3年ぶりに国際的なイベントでオリスの価値観を披露する機会を得ました。当社は人々に楽しみを提供することを目指しており、オリスや機械式時計について楽しそうに話す皆さんを見ることができたのは嬉しかったです。ご来場くださった皆様に感謝申し上げます。

ヘルシュタインエディション2022はシリーズの3つ目です。1904年6月1日に創業した、オリスの誕生日を記念するものです。この渓谷で誕生し、育ってきたオリスへの誕生日プレゼントでもあります。地域への感謝を表すものでもあります。ヘルシュタインエディションにはいつも



ちょっとした茶目っ気と、物語があります。例えばオリスペアが刻印されるのはこのシリーズだけです。オリスペアはオリスの物語の語り部でもあり、温かみ、喜び、独自の道を歩む姿勢を伝えるものであります。

これまでのヘルシュタインエディションはどのように受け入れられましたか？  
毎年恒例のリリースとして受け入れられて、楽しみにしている方もいらっしゃいます。正直なところ、ヘルシュタインエディションの基準に見合ったアイデアをひねり出すのは結構大変です。オリスの歴史と、地元への感謝を表現しなければなりません。オリスファンの皆さんに喜んでいただけると嬉しいです。

何故ヘルシュタインエディションは僅か250本しか生産しないのですか？  
良い質問ですね。多くの方々に持っていたいし、たくさん売れるのは嬉しいことです。でも、どなたにもお求めいただけると言しながら250本しかありません。オリスファンの為の特別な時計だからです。ヘルシュタインエディションはオリスの心臓に触れることが出来るものと言っても過言ではありません。



ヘルシュタインエディション2022は新しい方向を示すものです。なぜ、今更フルスチールの時計をつくるのでしょうか？実を言うと、フルスチールのワールドタイマーは、私がオリスに入社するずっと前から個人的に大好きだった時計です。そして、そのデザインが過小評価されてきたと思うのです。ムーブメントも気に入っています。

---

「オリスの心臓を表す、機能的で、実用的な、美しい機械式時計です。」

時計業界のランドマーク的存在です。2014年に発表したキャリバー110以前では、キャリバー690はオリスの最も複雑なムーブメントでした。だから特別なのです。オリスの心臓を表す、機能的で、実用的な、美しい、機械式時計です。フルスチールは、1990年代の実験的デザインを受け継ぐものでもあります。ランボルギニディアプロを思い浮かべると、楽しい気分になるでしょう？フルスチールもそうです。1990年代は今よりずっと自由な時代でした。今みたいにすべてがコネクトされていたわけではなく、お互いに対しても、仕事や社会に対して、もっと寛大でした。今となっては失われた価値観ですが、それを取り戻すような時計をつくりたかったのです。オリスの価値観です。



フルスチールコレクションを復活させるのですか？

今回特別に復活させたもので、このまま継続していくつもりはありません。でも、絶対ないとは言えませんね。

オリスベアがケースバックに戻ってきました。  
どういう意味を持つのでしょうか？

人を惹きつける力があります。オリスベアが嫌いな人はいないでしょう？人々に微笑みをもたらす、つまりオリスの目的を果たしてくれます。ベアには地位も名譽もありません。ただ、温かみがあるだけです。

金属として、スチールは信頼を与えるもので、ほんとうに形にも成型できます。ヘルシュタインエディション2022を特徴づけるものです。

# ヘルシュタイ ンエディショ ン2022

1990年代後半のフルスチールモデルをベースに、オリスのキャリバー690ワールドタイマーを搭載した、250本限定のヘルシュタインエディション2022はオリスの歴史とブランドの特質である「楽しさ」を讃えるものです。



## 商品詳細

ケース マルチピースステンレススチール  
サイズ 36.5ミリ径  
ダイアル ブルー  
蓄光材 スーパールミノバ（インデックス、数字、針）  
トップガラス サファイア、フラット、内面反射防止コーティング  
ケースバック ステンレススチール、ねじ込み、特別刻印  
オペレーティングディバイスステンレススチール製ねじ込み式リューズ、プッシュボタン  
プレスレットマルチピースステンレススチール  
プレスレット、フォールディングクラスプ  
防水 5気圧 (50m)

## ムーブメント

ナンバー Oris 690  
ファンクション 分針、1時間単位の時刻調整機能  
9時位置にスマートセコンド表示 3時位置に第2時間帯及びデイ&ナイト表示、瞬間ディテイ変更 デイトコレクター、ファインタイミングディスク、ストップセコンド  
ワインディング自動巻、両側回転レッドローター パワーリザーブ 38時間  
スペシャルエディション木製スペシャルボックス付き  
価格 税込550,000円  
発売日 2022年6月



690 7780 4085-Set

情報解禁 2022年6月1日21時

プレスリリースダウンロード  
[oris.ch/press](http://oris.ch/press)

Tel: 03-6260-6876  
info.jp@oris.ch

東京都中央区銀座4丁目3-14

